



地域の夢

和島地域

「新市地域らしさ価値」を高めるための和島地域の方針と活動

和島地域は、こんなところ

■和島村の成り立ち

和島村は新潟県のほぼ中央部、日本海側に位置し、周辺をなだらかな丘陵に囲まれ、中央部を島崎川、郷本川が南西から北に貫流し、これを取り巻くように平野が広がり、主要な集落や豊かな水田地帯を形成しています。南東部の丘陵地帯は、県下でも有数の人工林地帯「三島林地帯」が形成され、この林地帯を縦断する形で三島林道が開設され、中部北陸自然遊歩道にも指定されています。

和島村の歴史は非常に古く、海・山・野の幸に恵まれたこの地域には、旧石器時代、今から1万年以上も前から人が住んでいたと言われており、平成2年に八幡林遺跡から出土した「沼垂城」の木簡は

奈良時代前期のものと判明し、国の要衝の地として栄えた地域との可能性も指摘され、今後の調査に期待が掛かっています。

鎌倉時代には、日蓮上人の高弟・日昭上人を開祖として妙法寺が建立され、北越布教の中心となりました。明治44年には当村出身の久須美秀三郎・東馬親子が2代にわたりその私財を投げ打ち、越後鉄道株式会社を設立し、現在のJR越後線の前身、白山・柏崎間の鉄道を開通させました。

■良寛・貞心尼出逢いの地、良寛安住の里

地位や名誉を一切捨て、真の仏法普及を自らの使命とした聖僧良寛が晩年安住の地として和島の木村家に身を寄せ、貞心尼と出逢い、住民との温かい交流の中で人生の彩りを深めた平和の里です。良寛が愛した原風景と人情に出逢える里です。良寛の里美術館をはじめとし、晩年身を寄せた木村家、「良寛禅師墓」と銅

和島地域の方針と活動 (右頁参照)

和島地域において「新市地域らしさ価値」を高めていくための方向性と、活用したい地域資源(地域の強み)から検討した、将来実現すべき地域の姿(整備・活動方針)と実現のための活動・展開を提示します。

像のある木村家の菩提寺隆泉寺等、良寛ゆかりの名所が多数あります。日本全国はもとより、海外からも良寛を慕い多くの良寛ファンが訪れています。

子供たちには良寛に親しみ、逸話から徳を学び、人を愛する心を培っていただきたいという願いと、明治、大正、昭和、平成と激動の時代を生き抜いてこれ



た高齢者のみなさんからは、人間として尊厳を持った幸せな晩年を送ってもらいたいという願いから教育と福祉の融合さらに新たな教育の創造を目指し、子供達には「人を思いやる心」「お年寄りを敬う心」「人を愛する心」を、また、お年寄りには「生きる喜びの醸成」を機軸とし、それぞれがお互いに享受されるというような相乗効果を期待し、教育と福祉それぞれに生活する方々が共に育むという精神の醸成を目指しています。

■感動発見、やさしさ体験フィールド

日本海の美しい夕日と緑豊かな自然に出会える贅沢フィールド和島オートキャンプ場、食べてびっくりおいしいお米と新鮮野菜、情熱とやさしい自然が創り出す和島ブランドのお酒、古代のロマンが花咲く遺跡の宝庫、素朴な人柄同士が縁結び、タヒチとの国際交流、一期一会の出逢いの中で終生忘れることのできない感動とやさしさを発見できる和島です。



1 整備・活動方針と活動展開

—新市全体ありたい姿— WANT

和島地域において

独創企業が生まれ育つ都市

～誠実さが生み出す「技」立国・新ながおか～

を高める方向性

- ・住民の活動を活かし、独創力や企業力を高める人間教育を行っていく
- ・新たなことにチャレンジする住民の人間力が生み出す地域活動を、ビジネスモデル開発に展開する

—実現すべき和島の姿— WILL

■和島地域整備・活動方針

独創精神を支える 人間力養成モデル地域

- ・組織をつくってから進めるのではなく、地域で育まれた個々人の資質や技術のネットワークを活かし、多少のことではゆるがえない柔軟かつ強固な組織形成のモデル地域を目指す

実現していくための活動・展開

見極める

- 地域で生まれた技・住民活動を発掘し、ビジネスモデル構築を模索する

発信する

- 和島特有の独創を生み出す活動のPR展開・発信

育てる

- NPO・個人起業家・ボランティア等の連携強化
- 総合学習や地域活動などを通じた「独創・起業」の心を育てる活動

—活用したい地域資源— CAN

資源の強み・内容

道の駅でのチャレンジ

- 地元で生まれ育つNPO法人の活動
 - ・道の駅を拠点に村の情熱人がNPOを設立し地域づくり活動を展開している

安らぎを与える環境と人情

- 良寛終えんの地
 - ・良寛がもっとも輝き、人生の彩りを深めた晩年の良寛ゆかりの名所や良寛が愛し癒された原風景に接することができる
- 菊盛記念美術館寄贈
 - ・新潟県出身の故菊盛嘉雄氏は、和島の人々とそれを培ってきた歴史と風土に接し、心を大切にしてくれる地域であるとして、生涯をかけて蒐集した彫刻絵画とそれを展示する美術館を村に寄贈
 - ・ロダン、高村光太郎等の一級作品を展示

ものづくり集団の芽生え

- 若手木工芸・竹工芸職人の技
 - ・手作りと本物にこだわる家具作家やアマチュア作家が育ってきている。竹を素材とした作品づくりも行われている
- 食品加工（漬物など）へのチャレンジ
 - ・個々の農家や事業所において漬物づくりや食品加工が盛んになってきている
- 若手酪農家の取組
 - ・酪農家が仲間で組合をつくり、生産から加工・販売まで手がけ、世界的にも珍しい乳牛製品づくりに取組んでいる
- 手作り民芸品創作活動
 - ・道の駅を中心にした活動の中から民芸品づくりを行う個人やグループが育ってきている



2 整備・活動方針と活動展開

—新市全体のありたい姿— WANT

和島地域において

元気に満ちた米産地

～まごころ米の生まれる里・新ながおか～

を高める方向性

- ・人・生活・風土を育んできた歴史風景としての田園と、経済としての農林業の両立
- ・農林業を営む心のあり方を新ながおかにアピールしていく

—実現すべき和島の姿— WILL

■和島地域整備・活動方針

人間力と相互信頼が創り出す 自然体農林業生産地域

- ・自分たちが楽しみながら作り、食べ、人と人のつながりで産物を提供する活動を継続していく

実現していくための活動・展開

見極める

- 大区画ほ場・中山間地活用による適地適作集落営農システムづくり
- 住民による徹底した地場産物提供基地づくり

発信する

- 体験交流イベントによる和島のこだわり食品・食材の魅力発信

育てる

- 地場産物直売戦略をつなげる市民活動団体・参画農家の育成

—活用したい地域資源— CAN

資源の強み・内容

味が自慢のわしまの米

- 自然に恵まれた優良農地
 - ・蛍が飛び交うような平地や里山の自然環境の中で和島の米は作られている

こだわりの農産物

- 集落で考える農業システムづくり
 - ・村内を4地区に分け、地区ごとにその地域にあった集落営農のあり方を検討してきている
- 地域固有の食材づくり
 - ・地域固有の味を持った味噌づくりや漬物づくりが行われている

伝統産業としての酒づくり

- まぼろしの酒米復活とコシヒカリ米の酒づくり
 - ・二軒の酒蔵がそれぞれに素材の米づくりから製品開発まで生産者と一体となり独自の酒づくりに取組んでいる

販売交流活動

- 道の駅「地域交流センター（もてなし家）」、いきいき市場
 - ・地産地消と生産者の顔の見える農産物直売事業が盛んになってきている
- 自然薯栽培組合の取り組み
 - ・村の特産品開発事業で生まれた自然薯が消費者に好評。和島の特産品としての認知度が高まってきた

受け継がれる林業活動

- 県内有数の人工林地帯「三島林業地」
 - ・森林組合や個人林業家を中心として地域ぐるみで取り組み、代々受け継がれてきたスギの人工林地帯

3 整備・活動方針と活動展開

—新市全体ありたい姿— WANT

和島地域において

世代がつながる安住都市

～未来人を育む資源博物館・新ながおか～

を高める方向性

- ・心の時代に対応した人間教育や、さまざまな生活・人生のあり方を重視した教育システムづくりを目指す
- ・世代間交流を発展させ、世代間共生のあり方を模索し、伝え続ける

—実現すべき和島の姿— WILL

■和島地域整備・活動方針

「良寛安住の心」を守り伝える平和の里

- ・伝統的なコミュニティ活動や、良寛が安らいだ風土（人間・環境）を地域で守り伝える活動の推進

実現していくための活動・展開

資源の強み・内容

伝統的な地域コミュニティ活動

- 六夜祭弓踊り保存活動
 - ・六夜祭は宇奈具志神社の秋の祭礼。弓踊り行列は勇壮で郷土色豊かな伝統行事 保存会が結成され村の無形民俗文化財にも指定されている

●集落に残る「連中」等の活動

- ・島崎集落には、同世代の人たちによる伝統的な互助親睦活動が続いており、他の集落にも同様の活動が受け継がれている

教育への新たなチャレンジ

- 幼・保一元化教育の継続
 - ・15年以上前から保育所と幼稚園を隣接して整備し、双方の特性を活かしながら子育て支援に取り組んできている
- 地域一体「共育の里」づくりの取り組み
 - ・行政、大学、小学校教師、PTA、地域住民、職人等が連携して新しい教育と福祉のあり方を模索している
- ラビットファームの活動
 - ・花好きの人、自然大好き人間が集まり、学校の子供たちも巻き込んで、休耕田や山林等を教材とした活動を展開
- すずかけ農場・兎ヶ丘奉仕活動
 - ・地域住民やPTAが学校と一体となり様々な活動を展開

安らぎを与える環境と人情

- 木村家が伝える良寛安住の地
 - ・良寛を敬慕し、草庵に足しげく通っていた木村元右衛門の勤めにより、良寛は安住の地として島崎にある木村家を選んだ 良寛を惹きつける人情と地域風土が今に引き継がれている
 - 良寛終えんの地
 - ・良寛がもっとも輝き、人生の彩りを深めた晩年の良寛ゆかりの名所や良寛が愛し癒された原風景に接することができる
 - 菊盛美術館寄贈
 - ・良寛を受け入れた村民性に引き寄せられて故菊盛嘉雄氏も美術館と蒐集品を寄贈
- #### 工房ゆきわりの活動
- ・知的障害児・者を持つ保護者の会として「ゆきわり会」が平成7年発足。障害を持つ人たちの働く機会と権利、社会参加の保障を目的として精力的に活動

見極める

- 世代間共生のモデルとなる地域づくりの推進
- 良寛の心と、それを受け入れた地域の心を学び伝えるシステムづくり

発信する

- 癒し環境と田舎ぐらし・スローライフの楽しさ発信

育てる

- 世代を超えた教育・福祉の連携強化

4 整備・活動方針と活動展開

—新市全体のありたい姿— WANT

和島地域において

世界をつなぐ和らぎ交流都市

～「人」「ものがたり」「競和国」・新ながおか～

を高める方向性

- ・市民一人ひとりが創る、手づくりの交流地域を目指す
- ・和島地域だけで味わえる交流体験づくり

—実現すべき和島の姿— WILL

■和島地域整備・活動方針

一期一会の心を大切に自然体の交流地域

- ・安らぎ、癒しに関連する交流資源の発掘と蓄積
- ・住民一人ひとりの一期一会を、恒久的な地域の交流に育てていく仕組みづくり

実現していくための活動・展開

—活用したい地域資源— CAN

資源の強み・内容

歴史がつなぐ心の交流

- 良寛と地域
 - （良寛と木村家の交流にみる手づくりのもてなし）
 - ・良寛を敬慕し、無償のところで迎え入れた木村家 良寛を愛し、愛された住民と子供たちに出逢える地域である
 - 良寛と貞心尼
 - （出逢いと心の交流の風土）
 - ・晩年の良寛の命が最も光彩を放っているのが、若く教養のある貞心尼との出逢いである 和島村は二人の出逢いと交流の舞台となり、そのなごりを今に伝える地域である
 - 良寛と現在人
 - （スイスから良寛を慕いて・・・）
 - ・禅の修業を通じて良寛を知り、そのころに敬慕し、良寛に一目違いたくはるばるスイスから一人の教師が和島村にやってきた 良寛の魅力は広く海外にも及んでいる
- #### 住民から生まれたタヒチとの交流
- ・住民の手づくりの交流が姉妹村協定締結までに発展 子供たちの相互ホームステイ交流が続いている
- #### 手づくりの道の駅
- NPOが運営する、築170年の移築古民家「地域交流センター（もてなし家）」
 - ・温故知新の精神と一期一会のころでふるさとの魅力を発信しようとする和島の情熱人がNPOのスタッフとして奮闘

見極める

- 住民の一期一会を地域で共有する仕組みづくり
- 見返りを求めないふれあい交流活動の実践

発信する

- 道の駅を活用した手づくりの交流活動の発信

育てる

- 良寛文化など、地域の歴史を学びなおす仕組みづくり
- 地域文化や一人ひとりの生活を素材とした国際交流の地域づくり

もっと詳しく地域の方

和島地域

和島村は、多自然型居住地域としてこれから益々期待できる地域です。今ブームの本物志向の人たちに、適度な便利さと適度な不便さ、適度な賑わいと適度な静けさ、最先端の情報と悠久の時間の流れが共存し、時空と時空が交わるタイムスリップ空間、人生の楽園候補地としての魅力づくりに励んでいます。

■「ふるさと温故知新」のむらづくり

「スローフード・スローライフ」運動に代表されるように、今まで古臭いとみなされ、時代遅れだと捨てられてきたものが今見直され始めています。自分たちの足を今一度見つめ直すことから始めようという「ふるさと温故知新」の精神をむらづくりの基本理念としています。ここに住む住民が自身を取り巻く自然・環境・諸物との調和を大切にし、感謝の気持ちを持ち続けながら、与えられた生を人間として尊厳のある充実したものとするために、真の幸福とは何かを今一度問い直し、足るを知り、こころを平らにし、気をやすらかにして、穏やかに暮らしていけるような平和な里づくりを目指して様々な取り組みにチャレンジしています。



■道の駅 良寛の里 わしま

良寛さんの直筆の書等が鑑賞できる「良寛の里美術館」やロダンや高村光太郎の作品が鑑賞できる「菊盛記念美術館」等が設置された従来からの静かな癒しの空間に付け加えて、子供から大人まで楽しめる賑わいの空間「ふれあい広場」や古民家を移築再生した「地域交流センター（もてなし家）」が整備された。隣には、国土交通省により24時間利用できる「道路情報ターミナル」と大区画の駐車場が整備されている。NPOスタッフよるこころのこもった「もてなし」が待っている。



■和島オートキャンプ場

日本海を見晴らす丘に立つ和島オートキャンプ場。心地好い潮風・輝く緑、日本海を染める夕日、満天の星。海辺の自然があなたのキャンプステージ。ここを拠点に海水浴をするもよし、史跡めぐりをするもよし。さわやかな海辺の休日演出できるフィールド。



■住雲園と久須美秀三郎・東馬親子

曾我十郎祐成の子孫、16代当主久須美六郎により1717年に築造された名園。巨岩、奇石は各地の名産を集め、遠く弥彦山を望んだ借景の美は訪れる人のこころをとらえる。名付け親は大窪詩仏。17代当主はJR越後線・弥彦線の創始者久須美秀三郎である。子供の頃勝海舟に学び、和漢の学問を好み、進んで小学校を開いて子弟の教育にも努めた。波沢栄一、前島密らと北越鉄道の創立にも奔走し、弥彦公園の開発にも尽力。小島谷駅に父の秀三郎像、弥彦公園には子の東馬像が建てられ顕彰されている。



■ラビットファームの活動

島田小学校を中心とした周辺地域の花好きの人、自然大好き人間の集まりが母体となり、学校の子供たちも巻き込んで、休耕田や山林等の自然を教材とした様々な活動を展開している。写真は小学校4年生がラベンダースティック作りを体験学習している様子。山林歩道の整備、道路沿道に花を植える活動、秋の収穫祭、自然体験学習の指導など、子供も大人も楽しみながら実施している。